

平成28年度 伊那市立伊那西小学校評価表

学校関係者評価：(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価 (a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)	総合評価
「かしこさ」「やさしさ」「たくましさ」 ～知・徳・体の調和のとれた人間形成～	「根っこを肥やすふるさと教育の創造」 伊那西の豊かな自然と文化、人を最大限に活用した『ふるさと教育』を柱にして、『豊かな人間性』『たくましい心と体』『豊かな知性と確かな学力』のバランスのよい子どもを育てる。	本校を特色づける地域に根ざした教育活動や本校の宝物「林間(学校林)」に関わった教育活動、そして少人数学習集団の特性を踏まえた学習活動を展開できた。特に熊対策においては、昨年度に続き学校、地域及び行政、研究機関との連携を基にした通学路に面したトウモロコシ畑への電気柵設置を行い、電気柵設置場所への熊の出没を軽減できた。何よりも地域と共に児童の安全を守ることができ信頼や連帯意識が高まったことが大きな成果である。保護者を対象とした「学校生活に関するアンケート」では、11項目中9項目について「A十分達成された」「Bほぼ達成された」を合わせた評価が90%になっている。残り2項目は85%以上である。全ての項目について、昨年度より評価が上がっている。児童の実態をきちんと把握し、児童が意欲的に学習に関われるような学習指導や適切な生徒指導を行うこと、より開かれた学校になるよう改善点を話し合い教職員一丸となって取り組む、家庭と連携すべきことはきちんと伝えながら取り組むことを大事にしてきた成果だと思われる。今後、評価は下がってはいないが、保護者と児童との評価に差が見られた「挨拶」について重点を置き、学校運営や活動等をしっかり見返して子どもや保護者の思いをより大切にしていけるよう取り組んでいきたい。
	今年度の重点目標	成果と課題
	(1) 主体的に学び、「分かる」「できる」喜びを実感できる授業づくり (2) 少人数の特性を生かし、『ひと・自然・もの』とのふれ合いを通して育む思いやりのある集団・学級づくり (3) 自然を実感しながら行う、積極的な体力向上への取組	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業の教材研究をしっかりと行ったり子どもの意識に沿った授業構想を持って授業に取り組んだりしたことで、児童の学びへの意欲が高まり、理解力が深まったりしてきた。また、児童の実態に合わせて直接体験や具体的な操作活動を可能な限り取り入れたり、学習形態を工夫したりしたこと、児童がやる気を持って学習に取り組めるようになってきている。全員の児童が意欲を持って学習に関わり、自己表現力を高められるよう学びの場を保障することを大事にしたい。 児童の願いを根拠に据え、伊那西の自然、文化、農業、人等と関わりながら学びを深めていけるように「太陽の時間(生活科・総合的な学習の時間)」の年間活動計画を全学級立て取り組んできた。活動を通して自ずと友だちとの協力、助け合いが生まれ、大切な仲間という気持ちが育まれてきた。縦割り班での活動(飯ごう炊さん・林間ものづくり・清掃・登下校班)では、高学年が低学年に優しく、丁寧に間をみる姿を見ることができた。今後、登下校に関しては班の人間関係について大事に見守り指導していく必要がある。 今年度は、11月半ばまで林間マラソンに取り組め95%の児童が「林間マラソン」を時間いっぱい頑張って走っている」と答えている。自然を実感しながら行う、積極的な体力向上への取組頑張って取り組んできたといえる。
	改善策・向上策	<ul style="list-style-type: none"> 国語を窓口にして教科書の中から取り組みの中心となる教材文を決め出し「単元を貫く言語活動」の単元展開を全学年作成し、児童が既習学習をもとに主体的に学べる場を保障し、自己表現力を高めていく。 日常的に授業を見合い意見交換をしながら教師の授業力を高めていく。 年度当初立案した学級経営案を各学期ごと振り返る機会を設け児童の考え直しや支援を再考したり、全職員で児童の実態を共通理解し支援体制を取っていく。登下校時に生じる諸問題については実態把握と指導の徹底、家庭との連携を密に行うことを大事にしたい。 「太陽の時間」での活動を通して付けた力は何かを教師自身が明確にして取り組んでいくことを大事にする。 林間マラソンの回数を確保できるように日課へきちんと位置付けていく。冬期間の体力作りでは学年ごと短縄跳びに取り組む、実態に合ったカードを用いて意欲付けをしたり、縦割班での大縄跳びにも挑戦したりしていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点	総合評価
教育活動	教育課程	子どもを中心とした教育課程の編成と実施	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の完全習得を目指し計画的な教育課程が展開できたか 問題解決型の授業の展開に努め、「生きる力」を育成しているか コミュニケーション能力の育成ができたか 適切な運動を継続し、健康の増進と体力の向上を図っているか 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決型の授業展開について、児童の学習における自己評価では、「自分から調べ・考え・確かめる」の項目で、80%以上の児童が「そう思う・だいたいそう思う」と評価しているが、昨年度より評価は下がっている。主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を更に進めていく必要がある。 一時間の学力の定着を図るために「振り返りの時間」を毎時間確保し取り組むことで定着が図れない児童への支援対策が明確になり細部に渡り支援できた。しかし、なかなか毎時間「振り返りの時間」を確保できない実態がある。
	学習指導	基礎基本を見極め、つける力を明確にし、その定着を図る授業展開 「表現する力」「言葉の力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の授業を「ねらい・めりはり・見とどけ」を意識して授業を行っているか 個々の児童は学習内容を理解し、習得できているか 言語活動を大事にし、「表現する力」「言葉の力」を伸ばす指導ができたか 	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザイン化への取組としてホワイトボードに1時間の学習の流れを端的に書き示すことで、児童が見通しを持って落ち着いて学習に取り組めた。 教師が1時間の授業構想をしっかりと持ったり、プレートを使った板書計画を立てたりすることで児童が学習問題を理解し、課題把握して学習に取り組んでいる。 日課の中に基礎的な計算力、書く力の定着をねらいとした「チャレンジタイム」を組み込んであり、学年ごとにドリル等の繰り返しの学習と指導を充実させている。 「読む力」「話す力」を付けるために、それらの基本となる国語の学習のあり方(「単元を貫く言語教育」)について全職員で一丸となって取り組んできた。
	生徒指導	一人一人を生かす授業の創造	<ul style="list-style-type: none"> 児童・学級・学校・地域の持ち味を生かした特色ある教育活動を展開できたか 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間や生活科は地域素材を教材化したりして、子ども達の願いの表現に取り組む、子ども達の内に自己肯定感を育んできている。 地域で学ぶ農業体験学習に取り組む西地区の農業に関心を持つことができた。
	安全	心のふれあいを深める生徒指導 開かれた学級経営の充実と深化	<ul style="list-style-type: none"> 全員が存在感・所属感の持てる新鮮ではつつとした学級の組織づくり・人間関係づくりを図ることができたか 特に心を寄せる必要のある児童について、全職員の共通理解のもとに、一貫性のある指導ができたか 児童理解に係る報告・連絡・相談を実行しているか 	<ul style="list-style-type: none"> 学級づくりの基盤になる児童理解の視点を確かにするための年2回のQ-U研修は定着してきた。見えてきた結果を学級経営に生かす、つなげることの研鑽にさらに努めたい。 特に配慮を要する児童については、毎回職員会の最初に共通理解をする機会がしっかりと持っている。必要に応じ適宜校内支援会議を開き、適切な支援を児童や家庭に行ってきた。
学校運営	安全	通学路の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 不審者・交通事故、野生動物に係る危険から児童の安全を確保する取組は充分であったか 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に続き信州大学農学部との連携のもと、学校、PTA、区民、畜産家、県・市行政が協働して熊対策用の電気柵を通学路沿いに距離を伸ばして設置したことによって設置した周辺への熊の出没は軽減となった。地域との連携が強まった。 信州大学農学部の協力を得て「熊の学習」を実施し、熊の生態や熊から身を守る学習に取り組めた。 不審者が校舎内へ侵入したことを想定した防犯訓練を実施し、その対応と身の守り方について学習できた。
	管理責任場所の日常的な整備及び異状の有無の確認	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に危険箇所の点検がなされ、安全への配慮が十分であったか 教師自ら校舎内外の環境を整え、子どもと共に整備活動を実践したか 	<ul style="list-style-type: none"> 管理分担場所について安全点検を毎月月初めに定期的に行い、異状箇所は早期に修繕をした。 職員作業を通して長期間使われていなかった物の処分や新たな活用方法を工夫するなど整理整頓が進んだ。 	
	信頼を深め共に歩む家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 各領域に地域の方々を招聘し、豊かな経験や磨かれた技術を学習に生かし、教育効果を上げることができたか 	<ul style="list-style-type: none"> 畑や田んぼ作り、学校行事、クラブ活動そして各学年の取り組み等で地域の方を講師に招いて学んだ。講師の方の経験を生かした深い学びができ、地域との連携もなされ成果が上がった。 祖父母参観、総合展、しめ縄作り(5年)などの活動で地域の方も学校へ来て子どもと関わることを楽しみにされて良い交流ができています。 	
研修	教師としての資質向上をめざした研修・研鑽	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開や学年会の時間を有効に使い、互いに学び合ったり、知恵出し合ったり、工夫し合ったりして指導に生かすことができたか 自己課題を持ち、専門的な教養や技術を身につけるよう心がけたか 	<ul style="list-style-type: none"> 7月10月12月に指導主事の先生に学指研に参加していただき家庭科と国語の授業改善に向け指導をいただいた。指導を生かし授業構想を組み立て一人一公開研究授業を行い、子どもが主体的に学ぶために大切にすべき点を全職員で学び共通理解することができた。 	